

<p>たくましく 心豊かな 地球市民</p> 	<p>瞳かがやく 附属松本中の子ら</p> <h1>すずかけの森</h1>	<p>令和7年12月23日（火） 信州大学教育学部 附属松本中学校 学校だより 第7号</p> 
--	---------------------------------------	---

朝の冷たく澄み渡った空気の中、生徒たちが交わすあいさつの声や笑顔が、体や心を温めてくれる季節となりました。

12月22日には「附中メモリアルコンサート2025」が開催され、附中オーケストラも加わった全校合唱「讃歌」では、信濃の自然を体現するかのような壮大なハーモニーがホールいっぱいに響き渡りました。



そして、翌23日の校長講話では、今年度継続して取り組んできている「心の豊かさとは何か」について、牧野校長先生よりお話がありました。先月行われた全校人権講話での感想を踏まえ、生徒一人一人があらためて「いじめ」と向き合っていくことの大切さが語られました。新しい年も、心の豊かさについて問い続けながら、互いを認め合い、支え合う附中であることを願っています。

続 心の豊かさとは

～全校人権講話 武井美千代さんのお話から～

学校目標「たくましく 心豊かな 地球市民」の心の豊かさ、特に「いじめ」について話を進めています。

9月に行われた前期後半の参観日後の学級懇談で、皆さんと同じように保護者の方にも「いじめ」について話し合ってもらいました。

「いじめには、加害側のストレスなどの場合もあるが、決して許されるものではなく、家庭で子どもの話を中立的に聞きながら指導することが重要である」という話し合いが行われたと聞いています。他のお家の方がどのような話し合いをしたか興味がある人は、本日発行される学校だより「すずかけの森」を読んでください。

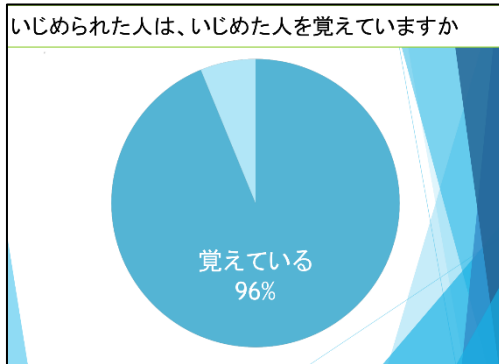
さて、前回勇気を出して書いてくれた人の話から、「理由のない理不尽ないじめ」について考えています。「理由のない理不尽ないじめ」そんなものはあるのか？「わたしの妹」という絵本を読んで、「いじめた側は、必ず理由をつけて、自分の中で正当化しながらいじめる」ということが明確になり、「自分と違って、言葉がおかしい」とか「自分と違って、跳び箱ができない」とか、自分との違いを根拠にいじめを行うということ。そして、自分と違うからと言って、いじめてもよい理由とはならない」という話をし、今回は終わりました。

その後、武井美千代さんを招いての講演会を開きました。亡くなったケンスケさんは、自分と違う唇の形と自分と違う耳の形を根拠にいじめられました。聞くことで、自分たちと違うからと言って、いじめてもよい理由にならないことが皆さんにも伝わったと思います。

ある生徒から、このような感想が寄せられました。



武井さんのお話を聞いて、今までの自分の考えが変わりました。いじめは絶対に「人としていけない行為」「許されない行為」と認識していました。しかし、今日のお話をお聞きして、「人としていけない行為」でおさまる話ではないと深く思いました。いじめられた方は生涯傷を負って苦しんで生きていくのに、いじめた方は楽しい人生を歩んでいくなんで腹が立ちました。



先程、自分と違うからといって、いじめてもよい理由にならないと言いましたが、言い換えれば、自分と違うからといって、生涯、苦しめてもよい理由にはならないと思うのです。生涯忘れられないのです。人によっては、そんな大げさなと思っている人がいるかもしれません。みなさんにアンケートをとった「いじめられた経験がある人」に、「いじめた人を覚えていますか」という質問をしました。何パーセントの人が覚えていると答えたでしょうか？ 実に、96%の人が覚えているんです。いじめは生涯忘れられないほど、辛いことなのです。

自分と違うからといって、いじめてもよい理由にはならない。

自分と違うからといって、生涯苦しめてもよい理由にはならない。

自分と違うと感じる身体的特徴、太っている、痩せている、顔や肌自分と違うと感じる行動的特徴、〇〇ができないとか、〇〇が苦手とか、単独行動をするとか、予想外の行動をするとか
思考的特徴、異なる価値観など

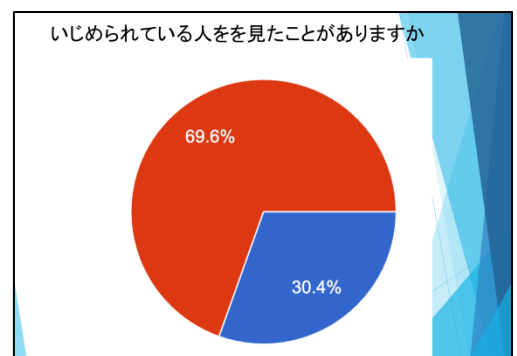
このように、自分との違いを感じたからといって、生涯苦しめてもよい理由にはならないのです。さらに、生徒の感想は続きます。

ケンスケさんがたくさん苦しくて悲しくて辛い思いをしたはずなのに「この経験が誰かのためになってほしい」という考えまでたどり着いたこと、心から尊敬します。本日の講演で学んだいじめの重さや怖さを心から受け止めて、私は救う側になるということを自分と約束しました。

「救う側になる」、いじめをやめさせる人になるという決意が素晴らしいと思います。

前回紹介した絵本「私の妹」でも、いじめられている最中、いじめている人、それをはやし立てている人、見ている人の三者がいたと思います。しかし、いじめをやめさせた人は出てきませんでした。しかし、「いじめられている人を見たことがありますか」という質問に対して、約70%の人が「見たことがある」と回答しています。

来年は、いじめを見た時にどうするか。いじられて悲しい顔をしている場面に遭遇した時にどうするか、話を進めていきましょう。



9月学級懇談会「いじめ」についての話し合いの様子

1 学年

1 A

- ・家庭では会話が少なく子どもの様子を把握しづらいが、小さな変化や「いじり」が「いじめ」に発展する芽を見逃さず、早めに対応することが大切だ。
- ・「いじめ」の定義は曖昧で難しいが、相手を傷つける言動は明確に「ダメ」と伝え続け、相手を思いやる力を育てることが必要だ。
- ・親としてはSNSや人間関係の背景も含めて子どもを支え、具体的な場面で考え話し合う機会をもちながら、幸せに過ごせるよう導いていきたいと願っている。

1 B

- ・保護者として子どもと共にいじめについて考え、距離の取り方や対話を通じて解決へ導きたい。
- ・思春期の難しさや立場の違いを理解しながら、相手や保護者とも話し合いを重ねていきたい。
- ・互いに傷つけ合う経験も成長につながると捉え、最後は笑顔で卒業できることを目指したい。

1 C

- ・小学校時代にいじめだと思い学校や保護者に相談したが認めてもらえず切ない経験をしたが、今は安心できる環境にいる。
- ・いじめは許されないと理解しつつも、原因があるのではないかと感じ、常に正しく行動することの難しさを感じる。
- ・自分の子どもが加害者になる可能性に不安があり、学校との連携や日頃から良好な親子関係を築くことが大切だと考えている。

1 D

- ・思春期の子どもとの何気ない会話を大切にし、いじめの兆候を見逃さないようにしたい。
- ・いじりといじめの境目は難しく、加害・被害・傍観のいずれの立場にもなり得ることを認識し、家庭で繰り返し話し合うことが重要である。
- ・いじめは犯罪行為として厳しく対応しつつ、互いに言い合える環境や相手の良さを認め合う姿勢を育むことが大切である。

2 学年

2 A

- ・家庭では子どもの変化に気づき、声をかけたり耳を傾けたりすることが大切であり、学校でのトラブルは家庭と情報を共有して連携したい。
- ・SNSでのいじめは把握が難しく、言葉による傷つけ合いが怖いので、親は一貫して「相手の気持ちを考える」姿勢を伝え続けたい。
- ・家庭内でも言葉の使い方に注意し、身近な相手を傷つけないよう日常的に話題にしていく必要がある。

2 B

- ・いじめに対する意識は「する側」と「される側」で異なり、人によって感じ方も違うため単純に数値だけでは判断できず、その背景や理由を考える必要がある。
- ・学校が子どもの様子を伝えることで、親子で話し合い、言葉遣いや互いを尊重する姿勢を育むことが大切だ。
- ・子ども自身がいじめについて考え、本音で語り合える少人数の場を設けることが有効だ。

2 C

- ・子どもを守るためには本人も周囲も強い心を持ち、親・先生・友人等多方面から相談できる環境が大切である。
- ・親は自分の子どもを信頼しつつも偏らず、被害者・加害者・傍観者の立場を問わず真摯に向き合い、違和感があれば声をかけることが必要だ。
- ・いじめやトラブルは見方によって立場が入れ替わることもあり、紙一重の難しさがあるため、大人が正しい判断を示すことが重要である。

2 D

- ・いじめには加害側の背景にストレスなどがある場合もあるが、決して許されるものではなく、家庭で子どもの話を中立的に聞きながら指導することが重要である。
- ・子どもにいじめの定義や善悪を明確に伝え、他人の良さを認める声かけを家庭で積み重ねることが必要である。
- ・学校・担任・保護者同士が情報を共有し、家庭での責任ある指導を通じていじめ解決に取り組むことが大切である。

3 学年

3 A

- ・いじめは家庭では話題にしづらいが、親子で定期的に対話し、子どもを一人の人間として尊重しながら冷静に話を聞くことが大切である。
- ・加害・被害どちらの立場でも、親が感情的にならず受け止め、必要に応じて身近な大人へ相談する姿勢を伝えることが重要だ。
- ・SNS や学校の人間関係の難しさも踏まえ、正解のない問題として親が主体的に関わり続ける姿勢が求められる。

3 B

- ・スマホや SNS の普及で誤解や常識のズレからいじめが生じやすく、家庭での対話や情報の伝え方が重要になっている。
- ・子どもは加害にも被害にもなり得るため、日々の様子を丁寧に聞き取り、SOS を出せる環境や互いを認め合う関係づくりが求められる。
- ・いじめは目に見えにくく複雑で正解のない問題だが、冷静に受け止め、声をかけ続けながら子どもの人間関係や心の変化に寄り添う姿勢が大切である。

3 C

- ・いじめは恐怖による支配であり、喧嘩とは区別して「だめ」と伝え続けることが大切だとされた。
- ・子ども本人が被害を自覚しにくく、特に男の子は学校のことを話さないため、周囲や先生の気づきが重要だと共有された。
- ・意見の違う人とも排他的にならずに関わることや、いじめといじりの線引きの難しさが課題として挙げられた。

3 D

- ・今のクラスにいじめが無いから安心していましたが、今後のために親として何ができるかを事前に話し合っておくことは大切だと感じた。
- ・第三者目線でいるときと、当事者になったときの感情が大きく変わると思うので、そこが怖い。